

## 一般化オイラーの法則とゼロ除算

定義 オイラーの法則を次のように拡張定義する。即ち、

$$e_r^{i\theta} = \cos_r \theta + i \sin_r \theta$$

と表記し、右辺をそれぞれ、

$$\cos_r \theta \equiv \frac{x_r}{r}, \quad \sin_r \theta \equiv \frac{y_r}{r}$$

と定義する。ここで、 $r \neq 0$  のとき、

$$\cos_{r \neq 0} \theta \equiv \cos \theta, \quad \sin_{r \neq 0} \theta \equiv \sin \theta$$

であり、 $r=0 \Rightarrow \theta=0$  であって、このとき、

$$\cos_0 \theta = \frac{x_0}{0} = \frac{0}{0} = 0, \quad \sin_0 \theta = \frac{y_0}{0} = \frac{0}{0} = 0$$

である。ただし、この結果は、ゼロ除算の基本定理  $0/0=0$  による拡張定義である。

以上の定義により、次の定理が成り立つ。

定理) 次の関係

$$e_r^0 = \begin{cases} 0 & (r = 0) \\ 1 & (r \neq 0) \end{cases}$$

が成り立つ。

証明) 定義

$$e_r^{i\theta} = \cos_r \theta + i \sin_r \theta \quad (1)$$

より、 $r \neq 0$  のとき、 $\theta=0$  とすると、

$$\cos_{r \neq 0} \theta = \cos_{r \neq 0} 0 = \cos 0 = 1 \quad (2)$$

であって、また、

$$\sin_{r \neq 0} \theta = \sin_{r \neq 0} 0 = \sin 0 = 0 \quad (3)$$

であるから、(2)式及び(3)式を(1)式に代入すると、

$$e_r^{i\theta} = e_{r \neq 0}^0 = \cos_{r \neq 0} \theta + i \sin_{r \neq 0} \theta = \cos 0 + i \sin 0 = 1 + 0 = 1 \quad (4)$$

が成り立つ。次に、 $r=0$  を考えると、 $r=0 \Rightarrow \theta=0$  であって、このとき、

$$\cos_r \theta = \cos_0 0 = \frac{x_0}{0} = \frac{0}{0} = 0 \quad (5)$$

であって、また、

$$\sin_r \theta = \sin_0 0 = \frac{y_0}{0} = \frac{0}{0} = 0 \quad (6)$$

であるから、(5)式及び(6)式を(1)式に代入すると、

$$e_r^{i\theta} = e_{r=0}^0 = \cos_{r=0} \theta + i \sin_{r=0} \theta = \cos_0 0 + i \sin_0 0 = 0 + 0 = 0 \quad (7)$$

が成り立つ。

以上より、(4)式及び(7)式をまとめて、与式

$$e_r^0 = \begin{cases} 0 & (r = 0) \\ 1 & (r \neq 0) \end{cases} \quad (8)$$

を得る。□

なお、定義より、

$$e_{r \neq 0}^{i\theta} = \cos_{r \neq 0} \theta + i \sin_{r \neq 0} \theta = \cos \theta + i \sin \theta = e^{i\theta} \quad (9)$$

が言える。